

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

# 文化通心

B U N K A T S U S H I N

2025夏 No.126



## 志々島の大楠に出会ったら

移住者を含めても人口16人の小さな島に大きな楠があります。明治23年の土砂崩れで木の根元が埋もれて、太い枝が地面から四方八方に伸びているように見えます。ちょうどかわいい花がさいて、風に吹かれてさわさわと迎えてくれました。財団では、去年、島の伝統を繋いで行くために開かれる「大楠祭」の開催について助成をさせていただきました。（今年は10月12日の予定）

- 茶室 de 若人茶会 高松商業高等学校茶道部
- 「記憶のしらべ ～戦争記憶を次世代へ伝えるための表現を探る～」座談会
- 新時代の茶室の使い方
- 6月から8月までの茶華道情報／財団からのお知らせ

発行：公益財団法人 中條文化振興財団  
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号  
TEL (087) 826-3355 FAX (087) 826-2212  
2025年夏号 No.126 6月1日発行(季刊)



# 茶室 de 若人茶会

とき 令和7年4月20日(日)

処 晴松亭

席主 高松商業高等学校茶道部

三年・部長 西本 愛海

## 高

松商業高校茶道部は、毎年春に、中條文化振興財団さんでお茶会をさせていただいています。毎回、多くのお客様が来てくださって、中には「楽しみにしていた」とおっしゃってくださるお客様もいらつしゃってともうれしく思っています。

今年は、三年生四名、二年生五名、計九名という少人数ではありますが、古市千秋先生にご指導いただき、お茶会の準備をいたしました。学年に関係なく、点



前や亭主などそれぞれがやりたい役を務めることにしました。点前が初めてという人もいれば、亭主が初めてという人もいますし、また、その両方をするという人もいたので、これまでのお茶会での経験を活かして、互いに教え合いながら、日々一所懸命にお稽古に励みましたが、うまくできるのだろうかという不安を抱いたまま、本番を迎えることとなりました。

今回のお茶会のテーマは「桜」です。

お茶会の開かれた四月二十日は、二十四節気の「穀雨」にあたり、春の温かい雨が大地を潤し発芽を促す時期とされています。桜が終わり、青々とした若葉の季節に移ろう時期でもあります。お茶会のテーマである「桜」は、古くから農事の開始を知るための目安で、人々は山桜の咲き具合を見に出かけていたそうです。これが花見の始まりと言われており、桜が終わると田植えが始まるとされています。桜は、稲の神様を指す「さ」、神



様が座る場所の「くら」が語源で、花見は稲の神様が里に下りてきたので田植えを始める宴として定着したそうです。お越しくださったお客様に今年最後のお花見をこのお茶会で楽しんでいただきたいという思いで、趣向をこらしました。

本席床は「春風入萬物」です。

花入は徳利で、花見にはお酒が付き物なのでこちらを選びました。

香合は「鯛」です。この季節に捕れる鯛は、産卵期に入り体がピンク色になるので「桜鯛」と呼ばれます。長寿祈願が込められているアイテムでもあります。

正客さんのお茶碗には「光悦 毘沙門堂写し」を選びました。毘沙門堂は京都にあるお寺で、桜の名所です。次客さんのお茶碗は渦模様で春の大潮の様子が描かれています。三客さんのお茶碗は「花咲じいさん」で、お茶を飲み終わると底に、物語に登場する犬のシロに出会えます。

茶杓の銘は「春光」です。春光とは春の日差しのことです。「ひさかたの 光の

どけき 春の日に しづ心なく 花の散るらむ」という和歌にもあるように、穏やかな春の日差しの中、散りゆく桜を惜しむ心を表現しています。

お菓子部員がデザインしたオリジナルのお菓子で「花筏」という銘をつけました。花筏とは、散った桜の花びらが水面に浮かび流れる様子を筏に見立てて表すことばです。

菓子器は「網蒔絵」です。網模様が描かれていて、香合の「鯛」と二碗の渦模様と合わせて選びました。網模様には、永遠、幸運、成功という意味があります。このように、それぞれのお道具から「桜」を感じて「花見」をした気分になっていただけたのなら幸いです。

初めて役を担う人が多かったので、一番何をがんばったのか部員に聞きました。

お点前だけではなく、全体を見て、水屋に指示を出したり、気になったことを積極的に聞いたりして、お席がスムーズ



に進むように気を配りました。

初めての亭主で、道具の勉強に特に時間をかけました。それでもうまく答えられないことがあって、全然勉強が足りていなかったと感じました。

亭主を完璧に勤め上げることが目標にがんばりました。自分で道具について調べたり、ほかの亭主役の文言を取り入れてみたりして、説明文を作り上げていき、それを少しずつ覚えていきました。本番では正客さんのお話に合わせながら



臨機応変に対応することができ、みごと成功させることができたと感じています。

半東の仕事をいちばんがんばりました。お点前さんの動きを見たり、亭主と正客のお話を聞いたり、お運びさんからの合図を見たりと、思ったよりやることが多くて集中しないといけないので大変でしたが、無事にお席を終えることができてほっとしました。

お点前をがんばりました。ところどころ失敗してしまいましたが、落ち着いて対処することができました。お茶を上手に点てることができてうれしかったです。

三年生がやっている仕事を引き継ぐことができのように、空き時間に先輩方の動きを見て、覚えられるように努力しました。水屋に点て出してもらったタイミングなどがわかりました。

お点前をいちばんがんばりました。お菓子を出す場所を間違えたり、お棗を濡らしてしまったりといくつかミスをしてしまったけれど、自分が点てたお茶を飲んでくださったお客様が「おいしかった」とおっしゃってくださってうれしく思いました。

初めてお点前に挑戦したので緊張した

けれども自分のペースで落ち着いて取り組むことができました。また、いつもは亭主としてお茶会に参加していたため、今までとは異なる視点でお茶会に臨むことができました。お点前をしていると、自分の周りだけ静かな空気が流れているような感じがしました。

各自がそれぞれ違う目標を持って、お茶会に取り組むことができており、次回に活かすための反省点も見つけられていて良かったと思います。お茶会をすることによって部員同士が以前に増して協力し合い、仲良くなれたとも思っています。今回初めて炉でお茶会をさせていたいただきましたが、お客様と火を囲むあたたかさがとても心地いいと感じました。また、風炉では使わなかった塗りの炉縁を後藤盆さんに見学に行かせてもらって、楽しんで道具の勉強をすることができました。

最後になりましたが、今回のお茶会に足を運んでくださった方々、私たち茶道部をご指導くださった先生方、さまざまな面で支えてくれている私たちの家族、そして何よりもこのような貴重な機会を与えてくださった中條文化振興財団のみなさま方にこの場をお借りして感謝申し上げます。

これからも目標を持って、新しいことにチャレンジしつつ、精進してまいりますので、高松商業高校茶道部を今後ともどうぞよろしく願います。







千田豊実「生き続ける鼓動」

令和6年度助成事業

戯曲家・演出家 仙石桂子と美術作家 千田豊実の演劇作品

## 「記憶のしらべ～戦争記憶を次世代へ伝えるための表現を探る～」 座談会

Art and Performance to next-gen 代表 千田 豊実

「シベリアで亡くなり、帰国がかなわなかった抑留仲間のことを忘れないでほしい。そのためには、過酷な抑留生活の記憶や仲間への想いを絵に残すこと。それが生きて帰ってきた私の役目かもしれない。そしてこの先、二度と自分と同じような思いをする人がないように。」と70歳からシベリア抑留の経験を描いてきた私の祖父、川田一一（1925―2012）。そんな祖父の後押しがあり、私自身も絵画シリーズの一つとして「抑留」をテーマに2009年から制作し、2012年に祖父が他界してからは抑留経験がある方々にインタビューをして絵に繋げてきました。

戦争を経験された方々が少なくなり、戦争記憶の継承が難しくなってきた現代、世界では大きな戦争が幾つも始まり、現在も続いています。祖父のような戦争経験者の想いをこれからどう次世代に伝えるべきか、考え直す時代に入っていると強く思いました。

そこで、私はこれまで取り組んできた祖父との絵画二人展とは形を変えて、戯曲家・演出家の四国学院大学教授仙石桂子とのコラボレーションという形で「シベリア抑留を絵に残した祖父と祖父の抑留を絵にした孫」をテーマとした演劇作品でも伝えたいと考えました。まずは、実際に演じてもらう社会人や学生俳優、舞台監督、スタッフの方にご参加いただき、仙石と座談会を開催しました。また、国際理解教育を学ぶ大学生や一般の方々

にもお越しいただき、ラジオやテレビなどメディアの取材も受け、予想以上の反響をいただきました。



川田一一「帰雁」

座談会の第一回は、令和6年5月にPOW戦争俘虜研究会の森広幸氏をお招きして「普通寺俘虜収容所について」お話をいただきました。1942年1月太平洋戦争中に国内で初めて開設された「普通寺俘虜収容所」。イギリス、アメリカ、オーストラリアなどの将校らを中心に600人以上が収容され、駅や港での荷役として働いたり、大麻山の開墾作業に駆り出されました。他の収容所に比べると将校が多いため、捕虜の待遇は比較的配慮されていましたが、次第に食糧や薬の不足などで10名の方が亡くなりました。普通寺俘虜収容所は、終戦後の1945年11月には閉鎖されました。善





通寺陸軍墓地内には、民間の方が建てた捕虜のお墓があることや、戦中市役所職員だった父の遺志を継いで死亡捕虜の名前を書いた位牌を供え、ずっと供養をされていた方がおられたことなど、お聞きすることができました。初回の座談会では、身近な善通寺ということもあり質問も多く出て、歴史への関心が深まる機会になりました。現在も、外務省の事業や個人で元捕虜のご家族の方が訪問された際は、森氏がその方々の案内役を務めておられます。

座談会の第二回は、9月に満蒙開拓団のインタビューアー西岡秀子氏をお招きし

て「香川の満蒙開拓団について」お話をしていたきました。1931年満州事変以後、旧満州（中国東北地方）で行われた日本人の農業移民政策として約27万人が、うち香川県は開拓団員と義勇隊員合わせておよそ7800名の方が、開拓民として旧満州に渡りました。1945年8月の敗戦後、旧満州国は消滅し、開拓団は暴民の襲撃や集団自決、伝染病、栄養失調などで約8万人が犠牲になったといわれています。座談会では、まず長野県にある満蒙開拓平和記念館からお借りしたビデオを視聴した後、10年程前に西岡氏と一緒にインタビューをさせていただいた元義勇軍の方のお話を交えて、旧満州での生活の様子、敗戦後の変わり様、帰国後の思いなどを聞かせていただきました。14歳から義勇軍として満州へ渡ったこの方の記録から、同年代の青年たちは体験を身近に感じたのではないかと思います。インタビューの際に、この方が「今後何かの役に立てれば。特に若い人に。」と涙ながらにお話してくださったことをようやくここで伝えることができました。

座談会の第三回は、11月にNPO法人舞鶴引揚語りの会から宮本光彦氏と仲井壽氏をお招きして「シベリア抑留について」お二人にそれぞれの視点でお話をしていただきました。シベリア抑留とは、第二次世界大戦終戦後、旧満州（中国東北部）、

北朝鮮、南樺太（サハリン）にいた日本軍兵士らが、ソ連軍の捕虜になり武装解除され、ソ連領各地の収容所に移送され、過酷な強制労働を強いられました。送られた軍人らは約60万人、寒さと飢え、劣悪な環境の中での労働で、およそ1割の約6万人以上が亡くなりました。宮本氏からは、シベリア抑留に至るまでの歴史背景と抑留の実態、過酷な抑留生活について、元抑留者のインタビュー「次世代に向けて」のビデオ視聴も交えて、多くを学ぶことができました。酷寒・飢餓・重労働・思想教育の「シベリア四重苦」に加え、生還して帰国した者にはさらに帰国後の社会的な差別が加わり「シベリア五重苦」と呼ばれていたそうです。自身のお父様が元抑留者であった仲井氏からは、抑留者の文化活動に焦点をあてて、お話をいただきました。絵画、歌、楽劇団、俳句・川柳・短歌と各ジャンルに分けて、文化活動の様子と苦難の体験を生きる力に変えたものは何か、私の祖父川田が抑留経験を絵にしたことに関連して、纏めた資料をいただきました読み進めました。

座談会の最終回は、令和7年2月に再び西岡秀子氏をお招きして「蓮井秀義氏が遺したシベリア短歌について」お話をさせていただきました。特に帰国後から短歌を作るまでの経緯や蓮井氏の抑留地の短歌、その短歌から読み取れる抑留者の心情を知ることができました。また、祖父川田のカラカンダの絵や帰国の遠

州丸の絵を見ながら、当時の抑留者の思いを考える時間をもつことができ、祖父の絵画制作の様子が何度も重なりました。

この度の計4回の座談会を通して、語っていただいた講師の方々の想いや次世代に伝えたい願いなども、直接お聞きできたことは大変貴重なものとなりました。毎回座談会の後半には、必ず質疑応答する時間を設けたことで、そこでは毎回熱心なやりとりがあり、「戦争」というものがどういふものなのか、何を生み出すものなのかなど、戦争経験がない世代が自ら考え、見つめる機会をもつことができました。これから仙石や演劇に携わるメンバーとさらに「抑留」について学び、演劇作品の制作に繋げていけたらと思います。

## 故祖父・川田一一と孫・千田豊実の二人展 「記憶のしらべ～後世に伝える平和への祈り～」

2025年7月29日（火）～8月17日（日）

さぬき市細川林谷記念館市民ギャラリーにて

令和7年度助成事業

仙石桂子×千田豊実 演劇作品

「記憶のしらべ」

2025年12月5日（金）～7日（日） 計4回公演

四国学院大学ノトスタジオにて





# 新時代の 茶室の使い方

## はじめに

お茶会に来ませんか？とお誘いした時、お茶をよく知らない人からは、戸惑ったように、着物が着れないので。とか、正座は苦手です。と、よく言われます。財団のお茶室となると緊張して、私なんかが行ける場所ではありません。と言われたりもします。

でも、そんな心配は要りません。確かに、茶の湯が作法や形式をうるさく問われた時代がなかったとは言えませんが、本来の茶の湯はお茶を介して楽しく交流する場所でもあります。

それぞれの流派で茶の湯を学んできた人達とはともかく、何も知らない人に作法を強制するのは、僭越でし失礼なことだと思います。誰に対しても心地よくお茶を召し上がっていただくのが亭主側の本来の態度ではないかと思っています。

さて、財団の主催するお茶会は、「五人様茶会」、「月に一度の喫茶室」、「若人茶会」など比較的少人数の気の張らないお茶席の開催を目指しています。これらの主催事業は茶室の使い方として、ひとつの提案でもあります。もちろん、洋服で参加できますし、椅子のご用意もしています。

茶の湯の席は、お互いの思いやりで成立しますので、指輪とかアクセサリーなどは、外して入って下さると助かります。これは大事なお道具を傷付けない為の配慮でもあります。

## 貸し茶室のこと

財団のお茶室は、本格的な数寄屋建築です。竣工から30年近くが経って、少しは茶室らしくなったと言うところです。建物は昔ながらの日本建築で、木と土と紙で出来ています。茶室の畳は京間なので、ひとまわり大きいサイズです。財団の茶室は本格的な茶事の開催から大寄せのお茶会まで出来るというコンセプトで建てられました。

しかし、もし今これと同じものを建てるとなると材料の調達とか数寄屋大工とか左官の技術を持った職人の手配などが、とても難しい時代になっています。そういう意味では、まだ新しい茶室ですが、文化財的な建築ですので、財団でも出来るだけ劣化しないように維持管理に努めております。そういう意味では普通の住まいとは大きく異なり極めて特殊な建物です。

日本建築は、襖とか障子と言った建具を外すと大きな空間が生まれます。部屋の大きさが用途によって自由に換えられます。だから使い方によってフレキシブルに変える事が可能です。

これまでも、お茶席以外に、ギャラリーとか音楽会に使ったり、演劇の公演に使われたりもしてきました。

平日は、お茶の稽古場やお能の稽古場になったりします。和菓子作りや書道のワークショップなどもあります。和の空間を求める方には最適だと思います。

## 茶室の空間の新しい利用法

財団のお茶室は、基本的に貸し茶室なので、どなたでもお使いいただけます。この空間をお使いになりたいければ、お茶以外の用途にご利用下さっても大丈夫です。視点を変えればまた、違う使い方のアイデアもあると思います。

茶室の概略ですが、小間の美藻庵は四畳半台目席。お庭に面した広間は八畳と六畳と畳の廊下で最大二十畳くらい。板の間の立礼席は約十五畳ほどで、コンサートなら30人くらい入れます。普段は何もない空間です。比較的大きな台所と水屋もあります。

お茶室本来の使い方でしたら、炭も使えますし、内容によっては、お料理の手配も可能ですので、簡単な茶事も可能です。もちろん本格的な茶事であれば言うに及びません。

例えば、お友達の誕生日やお仲間のお祝いのお茶会とか、気軽な茶会でも場の力というのは、とても助けになると思います。台所や、懐石の器などもありますから、ケータリングも可能です。

一度ご覧いただきましたら、公民館などの和室とは全く違う事がお分かりいただけると思います。気軽な晴れ舞台としてご利用いただけたら幸いです。もし、興味のある方は、まずは茶室の見学においで下さい。いろいろと新しい使い方が実現できるようにご協力させていただきます。よろしくお頼みいたします。



## すっきりとした苦味と、つるんとした口当たりが魅力

ほろ苦くさわやかな味わいはリフレッシュしたい時のおやつにぴったりのコーヒゼリー。

日本で食べられるようになったのは大正時代頃からといわれ、デザートとして浸透したのは1963(昭和38年)。軽井沢で夏だけ営業していた喫茶店で「食べるコーヒー」とも呼ばれ大ヒットしたのだとか。夏場に冷たくてほろ苦いデザートは至福のひと時になったでしょうね。

ホイップクリームやアイスクリームとの相性も良く、コーヒの香りと食感が絶妙に組み合わせ、今では定番のデザートとして愛されるようになりました。

そんな、日本では馴染みのコーヒゼリーですが、海外では一般的ではなく、初めて食べるとその美味しさに驚くのだとか…SNSでは、ボトルコーヒにゼラチンを入れて簡単に作れるレシピや、コンビニやスーパーで手軽に買えるコーヒゼリーを調味料としての使い方が紹介されています。食感や味の魅力いっぱいのコーヒゼリーで、今年の夏も乗り切りましょう。



## お茶の風景(28)

## 大津絵

「ナリの悪いことはしないや」

茶席の待合に雷さんの絵が掛けていました。亭主は自戒ですと前置きして、東海道五十三次の宿場町大津を発祥とした話を紐解きます。キリシタン禁教の中、難を恐れた庶民がお仏壇代わりに壁に貼った仏教的な絵がコンパクトな道中土産になり、絵柄も鬼の念仏から若衆や藤娘と増えていく中の、雷さんが商売道具の太鼓をうつかり落とし、雲の中から身を乗り出して拾おうとする図であること、比良八荒の強風に波立つ琵琶湖に浮かぶ太鼓が定まらず難儀する鬼ですと手短な説明。そういえば、釣り針は船の碇でさすがに豪快な所業ながら、必死の形相も何とも間抜け面に見えて笑みを浮かべながら聞いていると、これにはこんなオチがありまして…と、亭主の言う自戒(教訓)が披露されました。

そもその失敗談、体裁の悪いことながら無事太鼓を釣り上げて、水にぬれて湿った太鼓は鳴りが悪く、ナリの悪さが重複。讃岐の古老なら体裁が悪いと表現するところでしょうか。

財団行事予定  
(6月～8月)

休館日水曜日

お申込みは財団まで。急遽中止になる事もあります。

## 6月

- ◆ 懐石講座 三友居 山本勝先生  
6月3日(火) 午前11時
- ◆ 書道教室 毎月第1・第3金曜日  
森本義人先生  
6月6日(金)・20日(金) 午前10時～12時
- ◆ 和菓子講座 毎月第2金曜日  
高橋初乃先生  
6月13日(金) 午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング(子供茶の湯教室)  
毎月第2・第4土曜日 山下純子先生  
6月14日(土)・28日(土) 午後1時～
- ◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日  
6月17日(火) 午前10時～午後2時(受付)  
自由なお時間にどうぞ。(お弁当は要予約)

## 7月

- ◆ 書道教室 森本義人先生  
7月4日(金)・18日(金) 午前10時～12時
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生  
7月11日(金) 午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング 山下純子先生  
7月12日(土)・26日(土) 午後1時～
- ◆ 月に一度の喫茶室  
7月15日(火) 午前10時～午後2時(受付)  
自由なお時間にどうぞ。(お弁当は要予約)
- ◆ 茶室 de 若人茶会  
7月21日(月・祝)  
処 晴松亭(当財団茶室)  
席主 高松工芸高校茶華道部  
会費 一般700円・学生300円  
入席時間(各席20名)  
第1席 9時30分 第2席 10時30分  
第3席 11時30分 第4席 13時  
第5席 14時 第6席 15時
- ◆ あ・うんの数寄講座

## 「茶の湯をさらに楽しむ夏期講習」

7月26日(土)・27日(日)

講師等詳細は、最終ページに記載

## 8月

- ◆ 書道教室 森本義人先生  
8月1日(金)・22日(金) 午前10時～12時
- ◆ 懐石講座 三友居 山本勝先生  
8月5日(火) 午前11時
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生  
8月8日(金) 午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング 山下純子先生  
8月9日(土)・23日(土) 午後1時～
- ◆ 夏季休館  
8月12日(火)～15日(金)
- ◆ あ・うんの数寄講座  
「茶の湯をさらに楽しむ夏期講習」  
8月23日(土)・30日(土)・31日(日)  
講師等詳細は、最終ページに記載
- ◆ 月に一度の喫茶室  
8月はお休みさせていただきます。

令和  
7年度

第32回助成金  
交付団体決定

今年度の助成金交付団体に、  
次の3件が決定いたしました。

## 助成金交付団体

- ① Art & Performance to next-gen  
代表 千田 豊実
- ② でけでけ隊 隊長 滝川 真理
- ③ 仁尾八朔人形まつり守りびと

## 令和7年度 財団賞推薦募集

詳細は、財団ホームページをご覧ください。  
事務局までお問い合わせ下さい。  
提出締切 | 令和7年6月30日

## 表千家同門会香川県支部 TEL (087) 845-4638

- 6/1 香川県支部創立記念茶会 席主：真鍋宗容、三木宗真  
総本山善通寺 1,600円 9:00～15:00
- 6/15 高松市茶華道協会文化祭 席主：土井宗友  
玉藻公園披雲閣 2,000円 9:00～15:00
- 7/13 東讃教授者会 四季茶会 席主：真子宗博  
大西・アオイ記念館 1,000円 9:00～15:00

## 華道一生流 TEL (087) 821-4347

- 6/29 鬼子母神尊夏祭 奉納いけばな展と茶会  
茶席席主：茶道石州流高松会 会長 綾野宗悦  
妙本寺(本覚寺別院) 1,000円 9:00～15:00

## 茶道裏千家淡交会香川支部 TEL (0877) 62-4155

- 6/8 和と輪の集い茶会 席主：多度津分会 村井宗美  
多度津地域交流センター 600円 9:30～14:00
- 6/15 総本山善通寺 御誕生会 席主：献茶・稲毛宗敏  
総本山善通寺 600円 10:00～14:00

## 茶道裏千家淡交会高松支部 TEL (087) 841-0605

- 〈淡交会高松支部月釜〉 入席時間指定  
大西・アオイ記念館 1,000円 9:30～15:00
- 6/1 席主：鈴木宗浩
- 7/6 席主：田井宗隆

## 石州流讃岐清水派石州会 TEL (090) 2826-9229

- 6/15 高松市茶華道協会文化祭 席主：植田宗弘  
玉藻公園披雲閣蘇鉄の間 2,000円 9:00～15:00

## 武者小路千家香川官休会 TEL (087) 862-8574

- 7/6 香川官休会 席主：溝渕社中 みなづ月会  
無量寿院 1,000円 9:00～15:00

## 東讃茶道懇話会 TEL (087) 898-0391

- 8/3 第55回七夕茶会 席主：表千家流 萌生会 1,000円  
池戸西徳寺 8:00～14:00(受付終了) 茶筌供養7:30～

## 大西・アオイ記念財団 TEL (087) 880-7888

- 6/15 大西・アオイ高校茶会 席主：高松第一高校茶華道部  
大西・アオイ記念館 400円 10:00～
- 7/20 大西・アオイ花茶会 席主：江戸千家不白会香川支部  
大西・アオイ記念館 1,000円 9:00～

## 高松市香南歴史民俗郷土館 TEL (087) 879-0717

- 〈由佐城月釜茶会〉 第2研修室(和室)  
前売券800円・当日券900円 9:30～14:30
- 6/15 席主：安田宗輝(裏千家 川原宗津社中)
- 7/20 席主：安藤宗大(表千家 土井宗以社中)
- 8/17 席主：東山宗智(裏千家 下笠居伝統文化子ども茶道)

## ● 財団からのお知らせ

第11回 あ・うんの数寄講座  
「茶の湯をさらに楽しむ夏期講習」

本年度の夏期講習の日程が決まりましたのでご案内致します。

会場 財団茶室「晴松亭」広間

時間 ①午前の部 10時30分／②午後の部 14時～の2回

定員 各回20名

会費 10,000円(5回セット券)、高校・大学生は5,000円

申込 6月16日(月)午前10時より電話にて受付開始

参加ご希望の方は、事務局までお申込み下さい。お申込みの際は、  
午前か午後のどちらかのコースをお選び下さい。



第1回 7月26日(土)

徳留 大輔(出光美術館学芸部資料・保存課長)

「茶の湯において流行した唐物のうつわの変遷とその意義」



第2回 7月27日(日)

杉本 宏(京都芸術大学客員教授、日本庭園・歴史遺産研究センター  
日本庭園研究部門長)「宇治茶生産の歴史と現在」



第3回 8月23日(土)

岩間 真知子(静岡県ふじのくに茶の都ミュージアム客員研究員)  
「最古の茶書・陸羽『茶経』と日本」



第4回 8月30日(土)

十一代 大樋 長左衛門(日本藝術院会員・美術家)  
「うつわの哲学」



第5回 8月31日(日)

宮武 慶之(同志社大学京都と茶文化研究センター 共同研究員)  
「数寄者の話 一白醉庵・吉村観阿を中心に」

## 編集後記

5月5日の子供の日に全国の子供の占める割合が発表された。1番多いのは沖縄県で15%、1番少ないのは秋田県で8%でした。かなり以前から少子高齢化が懸念されていましたがより深刻になっていっています。このまま進んでいくと限界集落が増え、消滅していく。それらの地区の伝承や伝統行事が途絶えることにもなります。現在、それらを受け継ぎ伝えていく立場の方たちも「祖父母や親たちから聞いたことはあるが、実際に見たりしたりしてないので詳しくはわからない」と話す。音声と共に映像として残っていれば復興も可能になります。できるだけ早くデジタル化に取り組んでいただきたいと強く願っています。

「声・情報お寄せください」

〒760-0017

高松市番町二丁目一十二

公益財団法人 中條文化振興財団編集部

TEL (087) 826-1335

FAX (087) 826-1221

info@chujo-zaidan.or.jp